

1、園の教育目標

・よく考え、よくみつめる子ども	【思考・認識】	・心の美しい、優しい子ども	【情緒】
・自分から進んで創りだす子ども	【自主・自立・創造】	・辛抱づよく、やりとげる子ども	【忍耐】
・友だちと元気に仲よく遊ぶ子ども	【協調】		

2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した 学校評価の具体的な目標や計画

- | | |
|------------------------|----------------|
| ① 子どもの主体的な遊びを育むための環境作り | ② 幼児理解に努める |
| ③ 様々な人との交流の充実を図る | ④ 教職員の資質向上を目指す |
| ⑤ 環境美化・環境整備に努める | |

3、評価項目の達成及び取組状況

評 価 項 目	取 組 状 況
①◎子どもの興味・関心を意識した環境設定をすると共に、職員間で情報を交換し合い、環境を整える。 ◎子どもの意見に耳を傾け、遊びや学びが発展していくよう必要なヒントを与えたり追及する面白さを味わえるようにする。	○子どもの興味・関心を意識し、職員間の報告・連絡・相談を大切にしながら環境改善に努めた。 ○子どものアイデアが滞るときには、一緒に考えたり、子どもの発想を受け止めたりした。 ○子どもが興味を持っていることに意識を向け、その遊びを発展していけるように取り組むことができた。
②◎園児一人ひとりの様子やつぶやき、支援の必要な園児へのかかわりについて、園内研修や学年会等で共有し、理解を深める。 ◎一人ひとりの異なる表現の仕方や、良さを見出し、それを保護者・職員に伝え共有できるようにする。	○終礼や報告会で共有することで、他クラス、他学年の支援の必要な園児のことを知ることができた。 ○対話型の園内研修の取り組みで、さまざまな意見交換ができたり、一人ひとりの職員の考え方や意識している部分を知ることができた。 ○子どもの様子や成長を学年会で話し合い、共有し、保護者へ伝えることができた。
③◎子ども間で憧れの気持ちを持ったり、刺激し合ったりすることで、交友関係を深められるようにすると共に、地域の人ともかかわりが持てるよう働きかける。	○預かり保育では、異年齢の関わりを大切にし、交友関係を深められるよう促している。

◎挨拶を通して地域の人とも思いやりの気持ちを持ってコミュニケーションが取れるようにしていく。 ◎英語を使ったコミュニケーションの時間も大切に、異文化交流できる環境作りをする。	○各クラス商店街や近隣のスーパーなど、地域に向き関わりを持てる機会を作り、様々な活動を行うことができた。 ○英語担当の教師が、日常的に英語で挨拶することで、自然と英語に親しめるようにしている。また、年長児対象に、定期的に英語の時間を設けている。
④◎子どもにとって身近な大人として、自分自身の言動に気を付けると共に、保育について議論し、高めあえる関係性を築くことで、園全体の保育の質の向上に繋げる。 ◎積極的に研修に参加し、自身のスキルアップを目指し、遊びを切り取る力を身につける。 ◎率先して挨拶したり、感謝の気持ちを言葉にして、職員間の輪と笑顔を大切に協力しながら関係性を築いていく。 ◎テーマ保育を踏まえて、子どもの発達の土台となるような環境を意識する。	○職員間でコミュニケーションを取り合い、円滑に活動を進めることができた。 ○職員全体で園内研修を行うことで、学びにつながり、それぞれ保育に生かすことができたが、全体で共有する場を設ける必要性がある。 ○職員それぞれが自身のスキルアップのため、積極的に研修に参加しているが、全体での報告会ができていない現状がある。 ○テーマ保育を取り入れたことで、新しい視点で子どもの育ちを感じることはできたが、まだまだ難しく捉えている職員もいる。
⑤◎園内の清掃や、整頓等、常に意識し、継続的に環境美化に努める。 ◎定期的にチェック表をつけることで、危険箇所や危険物等に、職員一人ひとりが気づけるように努め、安全に過ごせる環境を整える。	○それぞれ担当場所は、常に意識し、環境美化に努めたが、担当以外のところに気づいて声をかけたり、意識を高めたりすることができなかった。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

○子どもの興味・関心を意識し、職員間の報告・連絡・相談を大切にしながら環境改善に努め、学年ごとにはそれぞれ成果が得られたが、他学年間との連携に課題が残った。 ○テーマ保育について、新しい視点で子どもの育ちを感じることはできたが、まだまだ難しく捉えている職員もいるため、報告会や話し合いの時間を取り、引き続き取り組んでいく。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
○子どもの主体的な遊びを育むための環境作り	◎園内研修(外部講師)のテーマを環境とし、講師のアドバイスをもとに子どもの主体的な遊びを育むための環境作りに取り組む。 ◎子どもの意見に耳を傾け、遊びや学びが発展していくように必要なヒントを与えたり、追及する面白さを味わえるようにし、子どもと同じ目線で楽しめるようにする。
○幼児理解に努める	◎園児一人ひとりの様子やつぶやき、支援の必要な園児への関わりについて、園内研修や学年会などで共有し理解を深める。 ◎一人ひとりの異なる表現の仕方や、良さを見出し、それを保護者・職員に伝え共有できるようにする。
○様々な人との交流の充実を図る	◎子どもの間で憧れの気持ちを持ったり、刺激し合ったりすることで、交友関係を深められるようにすると共に、異年齢の関わりが持てるように様々な活動を取り入れる。 ◎積極的に地域に出向き、挨拶や言葉のやり取りを通してコミュニケーションがとれるようにしていく。 ◎英語に触れる機会を増やし、英語を使ったコミュニケーションの時間も大切にする。(年長)
○教職員の資質向上を目指す	◎子ども達にとって身近な大人として、自分自身の言動に気を付けると共に、保育について議論し高め合える信頼関係を築くことで、園全体の保育の質の向上に繋げる。 ◎積極的に研修に参加し、自身のスキルアップを目指し、遊びを切り取る力を身につける。 ◎率先して挨拶したり、感謝の気持ちを言葉にして職員間の輪と笑顔を大切にするとともに、さまざまなことを言い合える関係性を築いていく。 ◎園内研修(外部講師)で、テーマ保育についての理解を深める。
○環境美化・環境整備に努める	◎園内の清掃や、整頓等、常に意識し、継続的に環境美化に努める。 ◎年度初めのキックオフミーティングにおいて、職員全員で施設を回り、施設内注意点について再確認し、安全に過ごせる環境作りへの意識を高める。